

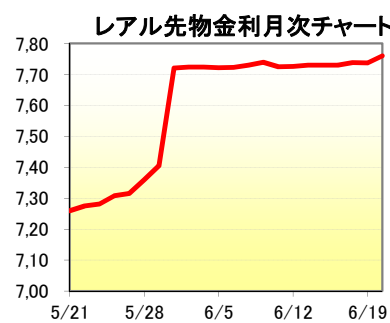
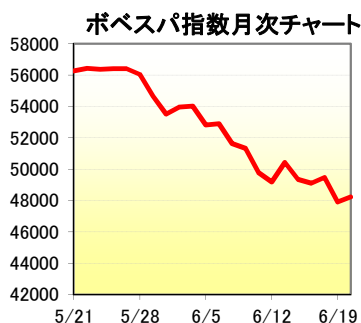
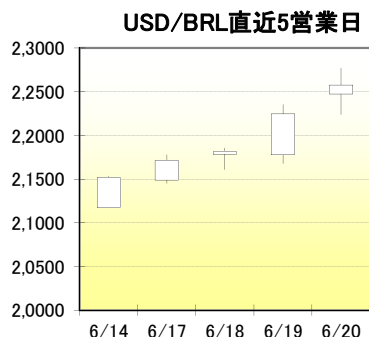
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,1610	2,1770	2,2090	2,2580	2,2410	-0,0170
	USD/YEN	Spot	94,64	95,38	96,40	97,38	97,90	+0,5200
	EUR/USD	Spot	1,3367	1,3405	1,3282	1,3215	1,3136	-0,0079
	BRL/YEN	Spot	43,59	43,71	43,33	43,30	43,67	+0,3700
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,21	1,36	1,54	1,87	1,88	+0,0113
		1Year(p.a.)	1,30	1,47	1,64	2,06	2,11	+0,0455
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,84	8,90	8,94	9,03	9,11	+0,0836
		1Year(p.a.)	9,40	9,59	9,74	9,78	9,86	+0,0755
Stock	Bovespa		49.089	49.465	47.893	47.970	47.056	-913,78
Bond	CDS Brazil 5y		162,25	166,13	185,20	185,20	210,50	+25,3000
	Global 40		120,375	119,850	120,250	116,250	117,500	+1,2500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
IBGE CPI IPCA-15(拡大/前月比,6月)	0.36%	0.38%	0.46%	なし
経常収支(月次,5月)	-\$6400M	-\$6420M	-\$8318M	
対内直接投資(5月)	\$3000M	\$3880M	\$5720M	
CAGED Formal Job Creation(5月)	150000	72028	196913	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は US\$1=R\$2. 1490 で寄り付いた。
- 週初は米 FOMC を控え米刺激策の縮小ペースに注目が集まる中、レアルは週間高値となる US\$1=R\$2. 1490 で寄り付いた後、大口の資金流出の噂から 2. 15 台前半まで反落した。翌日にかけても売り圧力が強く、レアルは 2. 1850 まで下値を拡大すると、伯中銀によるドル売り介入が通知され、レアルは一気に 2. 17 台後半まで買い戻された。
- 週央にかけては米 FOMC の結果発表を控えて暫く 2. 17 台半ばで小幅に推移した。注目の米 FOMC 後のバーナンキ FRB 議長の見会で、FED の資産購入ペースの縮小は年内から開始され来年半ばまでには終了する見込みとの内容が発表されたことから対主要通貨でドル全面高の展開となり、レアルも一気に 2. 2090 まで急落した。
- 翌 20 日にかけてもドル買い圧力が強く、レアルは 2. 24 台後半まで続落したことを受けて、伯中銀によるドル売り介入が実施されたが、マーケットのドル買いの流れを止めることは出来ずレアルは一気に週間安値となる 2. 2770 まで下落した。その後、伯中銀が当地主要行に対してドル売りスワップ需要についての問い合わせを行ったことが明らかになると、介入警戒感からレアルは 2. 2400 まで買い戻された。
- 週末にかけてもドル買いの流れは止まらず、伯中銀によるドル売り介入が見られ、レアルは 2. 2500 まで小反発したが、再び 2. 2700 を下抜け下落した。その後、米セントルイス連銀のブラード総裁が QE3 縮小に関して、インフレ率が低下している中で「タイミングが不適切」だとの見解を示したことが材料視され、レアルは大きく反発し、結局 US\$1=R\$2. 2410 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
6/24	FGV消費者信頼感	Jun	--	113.4
6/24	FGV CPI IPC-S	jun/23	0.40%	0.43%
6/25	貿易収支(FOB)-週次	45078	--	\$70M
6/25	FIPE消費者物価指数(週次)	jun/22	--	0.18%
6/25	FGV建設コスト(前月比)	Jun	--	1.24%
6/25	貸付残高(前月比%)	May	--	1.1%
6/25	融資残高	May	--	2453B
6/27	個人ローン・デフォルト率	May	--	7.5%
6/27	FGVインフレ率-IGP-M(前月比)	Jun	--	0.00%
6/27	FGVインフレ率-IGP-M(前年比)	Jun	--	6.22%
6/27	Central Bank Quarterly Inflation Report			
6/27	製造業PPI(前月比)	May	--	0.35%
6/27	製造業PPI(前年比)	May	--	5.48%
6/27	ブルームバーグ 6月 ブラジル 経済調査			
6/27	長期レート - TJLP	jun/27	--	--
6/27	中央政府予算	May	--	7.2B
6/28	純債務対GDP比	May	--	35.4%
6/28	基礎的財政収支	May	--	10.3B

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.20-2.30

今週のレアル相場は大相場となった。FOMC の結果を受けて来たるべき米量的緩和 (QE3) 縮小を織り込む形で対主要通貨でドル買いが先行し、レアルも 1000 ポイント以上下落した。相場下落の過程でブラジル中銀は数度に渡りドル売り介入を実施するも、ドル買いの流れを止めることはできず、連日にわたり安値を更新する展開となった。今週のレアル下落は米国サイドの外部要因に誘導された面が一番大きかったものの、ブラジル国内に目を向けてみるとこちらもセンチメントが大きく変わって来ているように思われる。先週サンパウロで始まったバス料金値上げを巡るデモが今週に入りブラジル全土に伝播し、デモ目的もバス料金から医療・教育・社会福祉などのより大きなテーマにシフトしている。デモがブラジル経済に与える直接的な影響がどの程度のものであるかを現段階で推し測るのは容易ではないが、海外の投資家に対してネガティブな印象を与える可能性は高い。また、先々週に見られた米大手格付け機関による格付け見通しの引き下げや依然高止まるインフレ、経常収支の悪化などブラジルに対するセンチメントは確実に悪化している。ブラジル中銀はインフレ抑制のために今後も利上げを継続する必要があり、年末にかけて SELIC 金利は 9.5%-9.75%程度まで引き上げられるだろう。為替相場に関しては全体的なドル上昇局面ではレアルの下落を止めるのは難しく、今後も中銀による為替介入は適宜見られるものの、当面は緩やかなレアル安トレンドが続くと思われる。当面の想定レンジは 2.20-2.30 を見ておきたい。但し来週末は当地企業の半期末決算にあたり、外貨建て負債を抱える地場企業が多く存在することから現状以上のレアル安は見込みにくい。来週以降も依然不確定要素が多く、引き続きボラティリティの高い展開が予想され、細心の注意が必要であろう。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department